

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866

住 所 神奈川県川崎市川崎区水江町6-20

氏 名 隅田冷凍工業株式会社

取締役社長 田淵 馨

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	隅田冷凍工業株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町6-20		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	主として、冷蔵倉庫を運営し、取引先の貨物を低温で保管・管理している。		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,279	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	( 2018 年度)	( 2019 年度)	( 2020 年度)	( 2021 年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 5,709	(実) 5,379	(実) 5,062	(実) 4,831	(実) 5,535
	(調) 5,709	(調) 5,379	(調) 5,062	(調) 4,831	(調) 5,642
削減率		(実) 5.8 %	(実) 11.3 %	(実) 15.4 %	(実) 3.0 %
		(調) 5.8 %	(調) 11.3 %	(調) 15.4 %	(調) 1.2 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量				原単位等の単位	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	( 2018 年度)	( 2019 年度)	( 2020 年度)	( 2021 年度)	
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	年間の買電力は基準8958kwhに対し、第1年度8964kwhになり、ほぼ横ばいで消費エネルギーの削減は出来なかった。 しかし、電力供給元であるJFEスチールのCO2排出係数が0.635kgCO2/kwhから0.598kgCO2/kwhとなり、大きな改善があった為、結果的に温室効果ガスの排出量は5.8%削減となった。	
第2年度	年間の買電力は前年度8964kwhに対し、第2年度8971kwhになり、微増となり消費エネルギーの削減は出来なかった。 しかし、電力供給元であるJFEスチールのCO2排出係数が0.598kgCO2/kwhから0.562kgCO2/kwhとなった。これは製鉄量の減少により発電用の燃料構成が変化した為で、結果的に温室効果ガスの排出量は基準年度から11.3%削減となった。	
第3年度	年間の買電力は前年度8971kwhに対し第3年度9011kwh、微増となり消費エネルギーの削減は出来なかった。 しかし、電力供給元であるJFEスチールのCO2排出係数が0.562kgCO2/kwhから0.534kgCO2/kwhとなった。これは製鉄量の減少により発電用の燃料構成が変化した為で、結果的に温室効果ガスの排出量は基準年度から15.4%削減となった。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		結果的にCO2削減の目標3.0%は達成できた。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		消費エネルギー削減は出来なかった。 新たな3年間の目標を立て、消費エネルギー削減を実施します。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>1. 冷凍機の運転効率改善 2015年6月1日 冷却塔にスケール除去装置を設置済。 スケール除去に伴う運転効率の向上により、使用電力の削減が見込まれる。 (7年間で熱交換効率が約60%から100%に改善見込み)</p> <p>2. ドックシェルター 外気侵入防止 ①外気侵入量が少ない最新型へ改修(対象17基中、15基完了)残り2基 ②準対応車種への隙間塞ぎによる外気侵入防止の徹底。</p> <p>3. HF蛍光灯のLED化(数量は対象数) 1 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 352本(残219本) 2 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 390本(残134本)</p> <p>4. その他のLED化(数量は対象数) 屋外水銀灯 対象14本(残6本)</p>
<p>第1年度</p>	<p>1. 冷凍機の運転効率改善 スケール除去装置設置後、5年経過し、冷却塔の空気透過率が性能の75%程度まで改善。 現在も改善継続中。</p> <p>2. ドックシェルター 外気侵入防止 ①外気侵入量が少ない最新型へ改修(15基完了) ②準対応車種への隙間塞ぎによる外気侵入防止の徹底。</p> <p>3. HF蛍光灯のLED化(数量は対象数) 1 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 146本実施(対象352本中、残73本) 2 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 36本実施(対象390本中、残98本)</p> <p>4. その他のLED化(数量は対象数) 屋外水銀灯 実施なし(対象14本中、残6本)</p>
<p>第2年度</p>	<p>1. 冷凍機の運転効率改善 スケール除去装置設置後、6年経過し、冷却塔の空気透過率が性能の80%程度まで改善。 現在も改善継続中。</p> <p>2. ドックシェルター 外気侵入防止 ①準対応車種への隙間塞ぎによる外気侵入防止の徹底。 ②16番パース ドックレベラー隙間塞ぎ工事を実施。</p> <p>3. HF蛍光灯のLED化(数量は実施数) 1 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 73本実施(対象352本全数完了) 2 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 98本実施(対象390本全数完了)</p> <p>4. その他のLED化(数量は対象数) 屋外水銀灯 2本実施(対象14本中、残4本)</p>
<p>第3年度</p>	<p>1. 冷凍機の運転効率改善 スケール除去装置設置後、7年経過し、冷却塔の空気透過率が性能の85%程度まで改善。 現在も改善継続中。</p> <p>2. ドックシェルター 外気侵入防止 ①準対応車種への隙間塞ぎによる外気侵入防止の徹底。 ②16番パース ドックレベラー隙間塞ぎ工事を実施。</p> <p>3. HF蛍光灯のLED化(数量は実施数) 1 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 対象352本全数完了 2 冷倉庫 冷凍庫内蛍光灯 対象390本全数完了</p> <p>4. その他のLED化(数量は対象数) 屋外水銀灯 0本実施(対象14本中、残4本)</p> <p>5. 2冷倉庫海側パース防熱扉改修 外気侵入防止策として防熱扉12基の改修を実施。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>CO2削減の取り組みとして予定していた案件は水銀灯4本を除き、計画通りに実施出来た。 但し、コロナ対策で2020年11月に導入した「24時間換気システム」が消費エネルギーを増やす方向になった為、トータルの消費エネルギーは微増となった。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	太陽光発電を検討したが屋根の強度が足りず、導入できない事が判明した。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	無し
第1年度	無し
第2年度	無し
第3年度	無し

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<p>1. 廃棄物の減容化</p> <p>2. リサイクル化の推進</p>
第1年度	<p>1. 廃棄物の減容化 大量に出る使用済のラップを減容機により圧縮し減容化する事で、リサイクルコストを削減した。</p> <p>2. リサイクル化の推進 一般ゴミとして処理していたプラスチックパレットの破片を廃プラとして分別処理する事により、リサイクル化を進めた。</p>
第2年度	<p>1. 使用済ラップのリサイクル 大量に出る使用済のラップを減容機により圧縮し減容化する事で、産廃ではなく有価物として処分している。</p> <p>2. リサイクル化の推進 一般ゴミとして処理していたプラスチック小片を含んだ塵取りゴミを廃プラとして分別処理する事により、一般ゴミの減量化を進めた。</p>
第3年度	新規取り組み措置は特に無し

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	5,709 t-CO <sub>2</sub>	5,379 t-CO <sub>2</sub>	5,062 t-CO <sub>2</sub>	4,831 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	2,266 KL	2,266 KL	2,269 KL	2,279 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
隅田冷凍工業株式会社	川崎区水江町6-20	5,709	5,379	5,062	4,831

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度